

地域でなくす子どもの格差

チーム ジャニガ

岸野智世 佐藤玲奈 三鈴さくら 戸田帆南

指導教員 水元昇

研究協力者 ファミリー・サポート・センター)

創価女子短期大学 現代ビジネス学科 水元ゼミナール

キーワード：ファミリー・サポート・センター・貧困・格差・子ども・学生

1. はじめに

私たちは貧困について研究している。そのなかで多くの格差が存在し、複雑に絡み合い、そして格差が与える影響が大きいことが分かった。そこで私たちは現在運営されているファミリー・サポート・センター¹⁾の拡大を目的とし提案をする。地域の絆を強めるべく始まった相互援助プロジェクトだ。私たちはこのプロジェクトが共働きやひとり親世帯の時間的余裕がない家庭や近隣に身内や親戚がいない方やその家庭の子供の社会進出の一助になるのではないかと考える。

2. 現状

日本の貧困は相対的貧困であり全国民の 6 人に 1 人が貧困²⁾である。相対的貧困の影響は、子ども期から表れる。小学 6 年生の、学力テストの点数は親の収入に比例³⁾しており義務教育の時点で、すでに格差があるといえる。貧困は、子どもの心にも大きく影響する。経済的に低い位置にあることが、健康や精神状態、能力、人間関係、そして、最後には自分自身をどう評価するかという自己肯定感まで低めてしまうことだ。子どもは自分のことを理解してくれる家族などに支えられ、信頼関係を構築することで、自己肯定感を培っていく、それは課題や困難に対しても前向きに取り組む力になると言われている。多くの人と関わることで多角的な考えを身に付けることができ自己肯定感を身につけることができるだろう。

そこで私たちは現在八王子市で運営・活用され

ているファミサポに着目した。ファミサポは地域において育児や介護の援助を受けたい人と行いたい人が会員となり、育児や介護について助け合う会員組織。この事業は働く人々の仕事と子育てまたは介護の両立を支援する目的から、労働省（当時）が構想し、設立が始まった。⁴⁾

図 1 「ファミリーサポート構成図」



出典；一般社団法人女性労働協会 HP

現在、ファミサポは依頼会員が約 2500 人、提供会員が約 600 人である。そして提供会員は 40～60 代の方が大多数を占めており預かりや送迎依頼が半数を占める。命を預かるため多くの制約が存在するため若者世代の参加が難しいといえる。

3. 提案

私たちは現在活用・運営されているファミサポの活動を知り、活用してもらうためファミサポの新しい広告方法と制度を提案する。八王子市は多くの大学のキャンパスがあり「学生の町」といわれている。そのことから若者に注目した。

① 「SNS」による拡散

「SNS」による広告方法の提案をしたい。その広告には、講習内容、学生に求める条件、時給代金、ホームページの URL を載せ、それを閲覧者に拡散してもらう。それにより今までではホームページや紙媒体に限られていた宣伝方法を若者の身近な「SNS」で知ることが可能になる。さらに、ファミサポ会員になった後、依頼会員と提供会員の空き時間を「SNS」上で入力・調整することを可能にし、学生も参加しやすい環境を提案する。



②コースを分ける

「学生コース」と「ベテランコース」を設置。さらに「学生コース」を勉強専門コースと送迎・預かりコースの 2 コースに分ける。提供会員となる学生には事前アンケートの作成を原則とする。また、提供会員を学生に依頼する依頼会員にもアンケートの作成を原則とする。提供会員、依頼会員の特徴を先に知ることで不安を少しでも取り除くことと共に事故やトラブルの回避を目的とする。そして、スムーズなマッチングを目指したい。

- ・「学生コース」 勉強専門コース

勉強や宿題のサポートをメインの勉強サポートコース。

- ・「学生コース」 送迎・預かりコース

送迎や預かりをメインとする。

- ・「ベテランコース」

家事や保育園の送り迎えなど、今までの活動と変化無く行う。

また、"送迎預かりコースを学生だけに依頼するのは不安"という依頼には 1 組 2 人の学生と学生、学生とベテランさんなど 2 人以上の提供も考えている。

4. おわりに

この提案を通じて八王子市在住の若者がファミサポに参加することで、社会参加を促し、人との関わりを通じて地域のつながりの大切さを感じもらいたい。多くの人に知り活用してもらいたい仕組みであるため必須条件である講習会の負担は極力少ないものとしたい。また、あくまでも相互援助活動におけるボランティアであることを前提に自分の能力や希望に応じた活動ができるというボランティア活動の魅力を専門性が求められる仕事と誤解が生じないようにする。そして専門的な知識や技術を要するサポートは、本来ファミサポのようなボランティアに支えられるべきはないことを提供会員や依頼会員に周知しファミサポの位置付けを考える。

貧困による人間関係の欠如に注目し、改善していくために、ファミサポを活用する。そこに学生を投入し地域のつながりの拡大を目指したい。

5. 参考文献

八王子市ホームページ

(<http://www.city.hachioji.tokyo.jp>)

一般社団法人女性労働協会

(<http://www.jaaww.or.jp/index.php>)

内閣府 (<http://www.cao.go.jp/>)

注)

1) 以下ファミサポと表記。

2) 内閣府 『平成 27 年度版 子ども・若者白書(全体版)』

3) 国立大学法人お茶の水女子大学『平成 25 年度全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究』

4) 一般社団法人女性労働協会

(<http://www.jaaww.or.jp/index.php>)